

2022年9月9日 全8頁

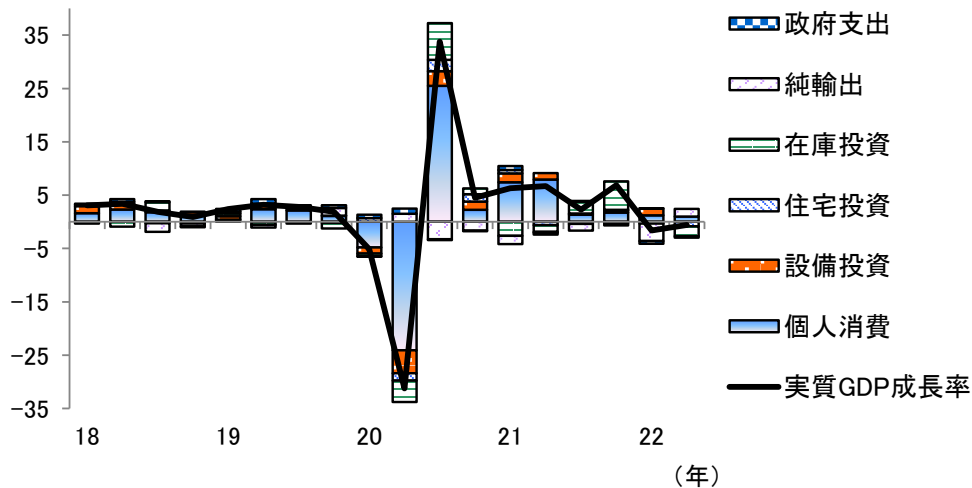
アメリカ経済グラフポケット (2022年9月号)

2022年9月7日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美
主任研究員 矢作 大祐

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



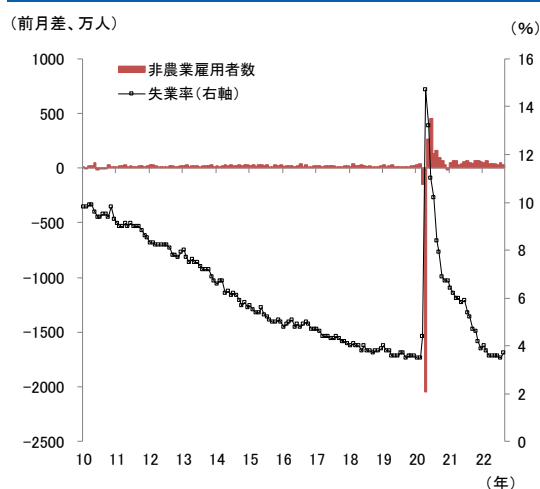
(前期比年率、%、%pt)	2020		2021				2022	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	33.8	4.5	6.3	6.7	2.3	6.9	-1.6	-0.6
個人消費	41.4	3.4	11.4	12.0	2.0	2.5	1.8	1.5
設備投資	18.7	12.5	12.9	9.2	1.7	2.9	10.0	0.0
住宅投資	59.9	34.4	13.3	-11.7	-7.7	2.2	0.4	-16.2
政府支出	-2.1	-0.5	4.2	-2.0	0.9	-2.6	-2.9	-1.8
輸出	54.5	22.5	-2.9	7.6	-5.3	22.4	-4.8	17.6
輸入	89.2	31.3	9.3	7.1	4.7	17.9	18.9	2.8
寄与度								
個人消費	25.5	2.3	7.4	7.9	1.4	1.8	1.2	1.0
設備投資	2.7	1.6	1.7	1.2	0.2	0.4	1.3	0.0
住宅投資	2.2	1.3	0.6	-0.6	-0.4	0.1	0.0	-0.8
在庫投資	6.8	1.1	-2.6	-1.3	2.2	5.3	-0.4	-1.8
政府支出	-0.2	-0.1	0.8	-0.4	0.2	-0.5	-0.5	-0.3
輸出	4.6	2.1	-0.3	0.8	-0.6	2.2	-0.6	1.9
輸入	-7.9	-3.7	-1.3	-1.0	-0.7	-2.5	-2.7	-0.5

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

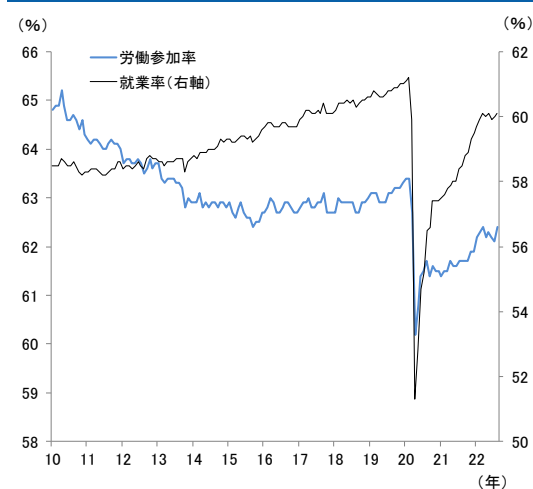
- ◆ 8月の失業率は3.7%となり、前月から0.2%pt上昇した。7ヵ月ぶりの上昇となったが、非労働力人口の減少が押し上げ要因であり、雇用環境の堅調さが示された。
- ◆ 8月の非農業部門雇用者数の前月差は31.5万人増となった。前月から減速したものの、高い伸びが続いている。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は38.1万人増であった。

非農業雇用者数と失業率



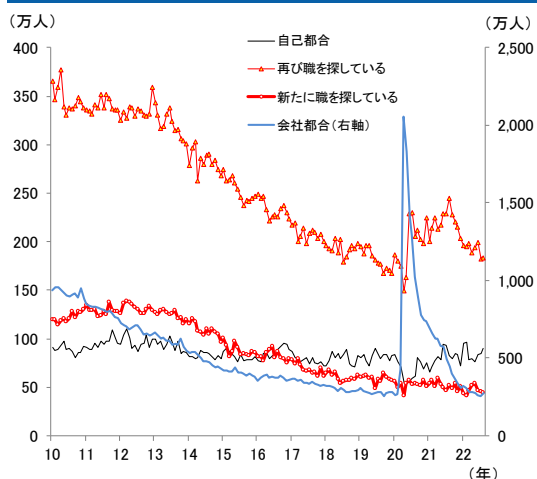
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



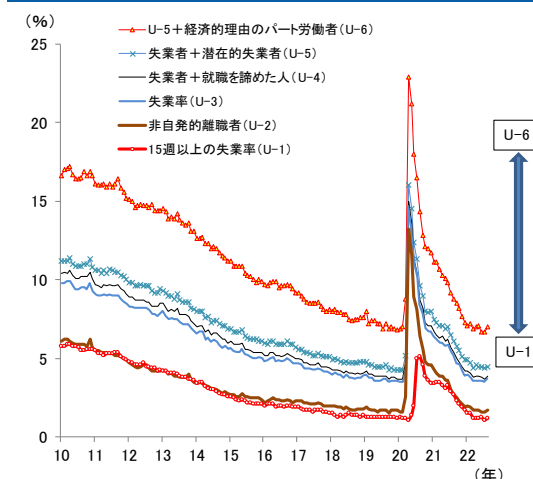
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



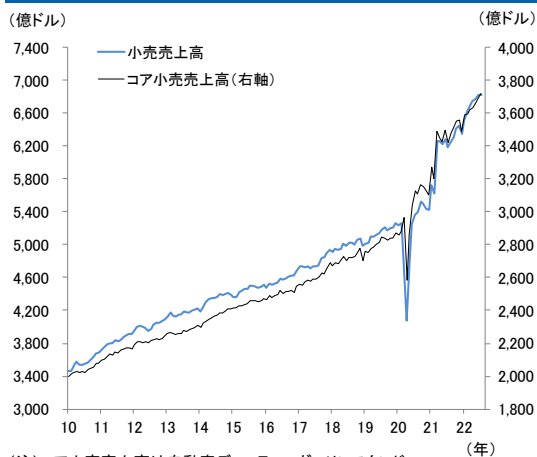
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「非農業部門雇用者数は前月差+31.5万人」(2022年9月5日)参照。 https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20220905_023255.html

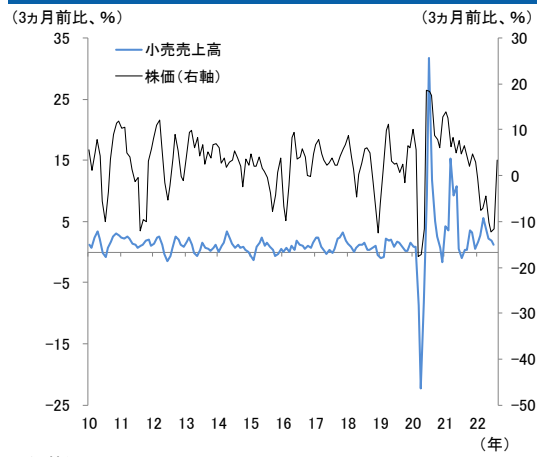
個人消費

- ◆ 7月の小売売上高は、前月から横ばいとなった。無店舗小売業者（オンライン）の売上増などが押し上げ要因となる一方、ガソリン価格の低下が足を引っ張った。コア小売売上高は前月比0.8%増となり、7ヵ月連続で増加した。
- ◆ 8月の自動車販売台数は前月比0.8%減少し、年率換算1,339万台となった。長引く在庫不足に加えて自動車ローン金利の上昇が響き、3ヵ月ぶりに減少し、販売台数は低水準となった。
- ◆ 8月のロイター／ミシガン大消費者センチメントは、前月の51.5から58.2へ上昇した。ガソリン価格の低下を背景にインフレ懸念が緩和したことから、内訳の期待指数が急上昇し、2022年5月以来の水準まで改善した。しかし、消費者マインドは依然として低水準である。

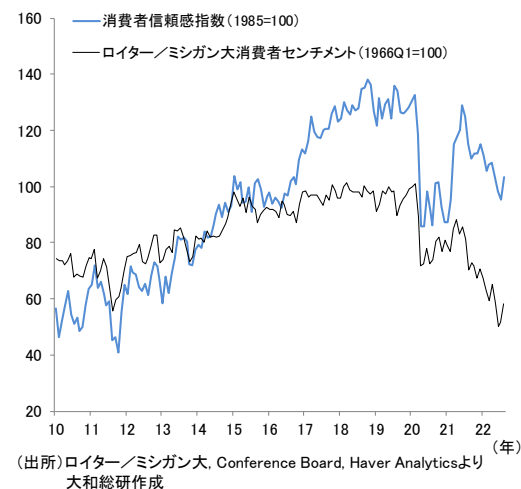
小売売上高の推移



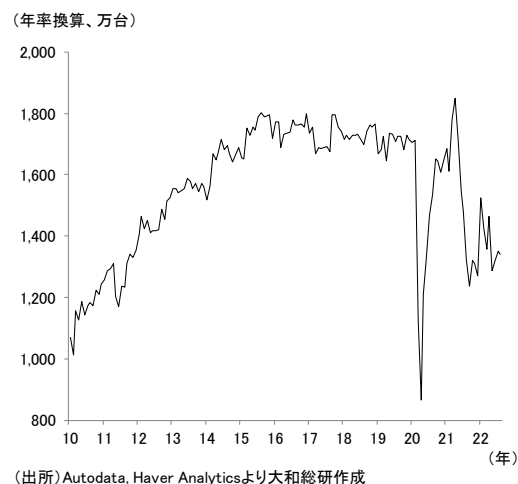
消費と株価



消費者マインド



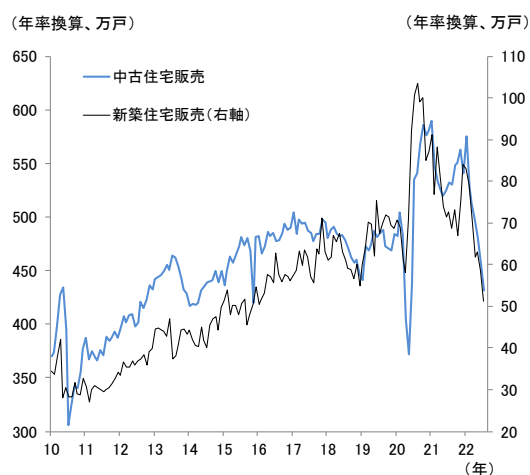
自動車販売台数



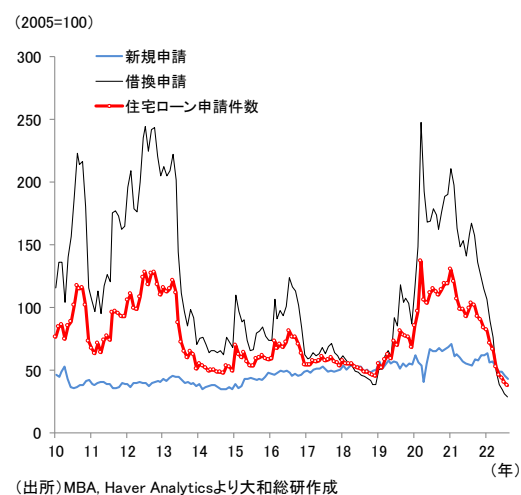
住宅市場

- ◆ 7月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比9.6%減の年率換算144.6万戸となった。住宅ローン金利の上昇などで一戸建ての需要の落ち込みが目立ち、2021年2月以来の低水準となった。
- ◆ 7月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比5.5%減の年率換算431.0万戸であった。住宅ローン金利の上昇や高水準な住宅価格が響き、6ヵ月連続で減少し、コロナ禍初期の2020年5月以来の低水準となった。
- ◆ 7月の新築住宅販売件数（一戸建て）は前月比12.6%減の年率換算51.1万戸となった。住宅ローン金利の上昇や住宅価格の高騰が重しとなり、2016年1月以来の低水準に落ち込んだ。
- ◆ 6月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から0.4%上昇した。住宅価格は、2020年6月以来の低い伸びにとどまったが、上昇基調が続いている。

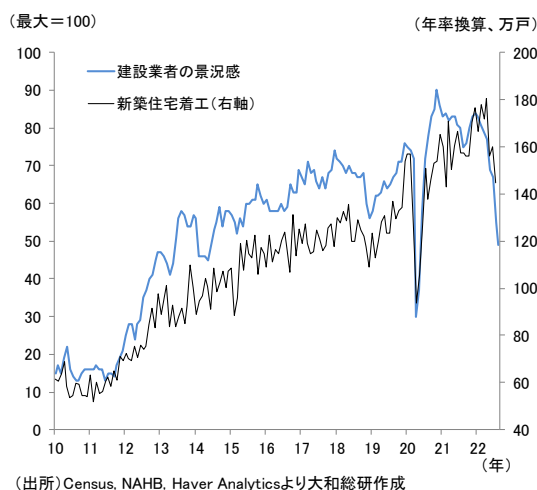
住宅販売（一戸建て）



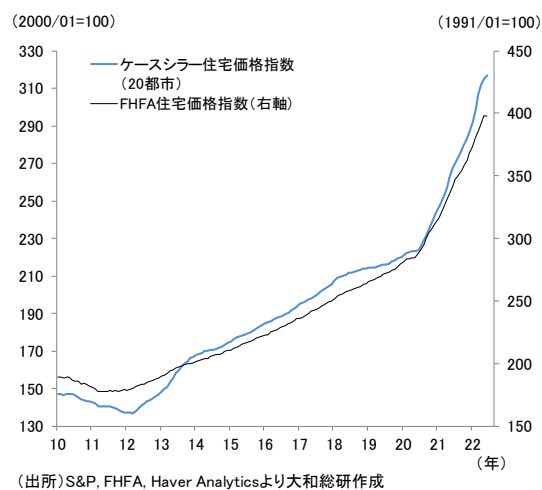
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



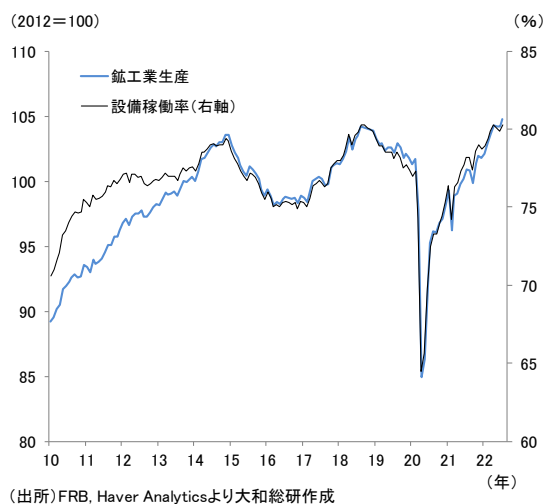
住宅価格



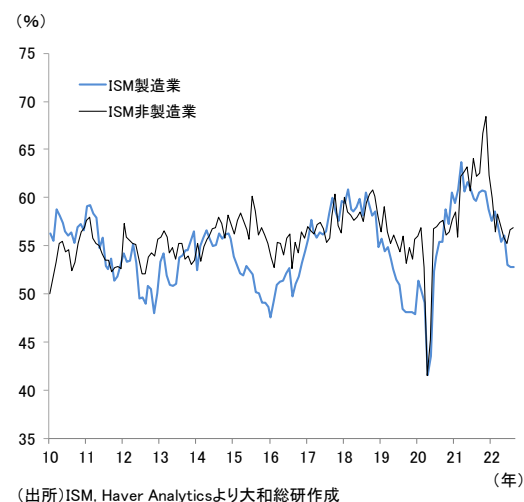
企業動向

- ◆ 7月の鉱工業生産指数は前月比0.6%上昇した。自動車・同部品の生産が急増し、生産指数全体の約70%を占める製造業（SICベース）が同0.7%上昇と3ヵ月ぶりに上昇したほか、鉱業も上昇し、全体を押し上げた。
- ◆ 7月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比0.3%増となった。自動車・同部品の受注が増加するなど製造業の堅調さが維持され、5ヵ月連続で増加した。
- ◆ 8月のISM製造業指数は、前月から横ばいの52.8%となった。構成項目である雇用や新規受注が回復したものの、生産などが低下し、2020年6月以来の低水準にとどまった。非製造業指数は、前月から0.2%pt上昇の56.9%となり、2ヵ月連続で上昇した。両指標ともに、拡大・縮小の分岐点である50%を上回る水準が2020年6月以来続いている。

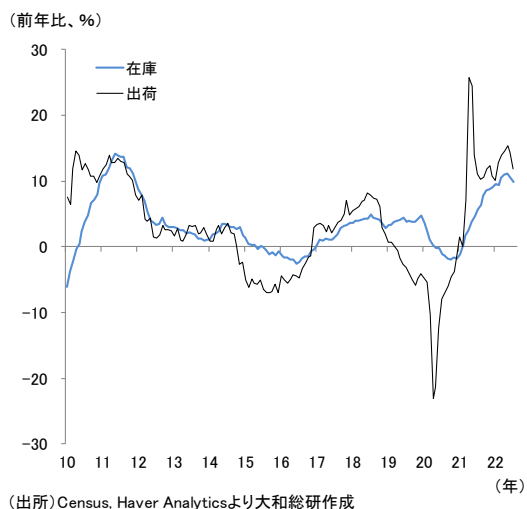
鉱工業生産と設備稼働率



企業の景況感



製造業の出荷・在庫



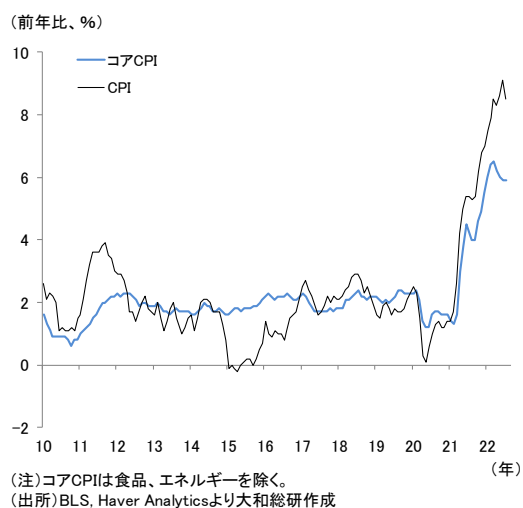
耐久財受注



物価動向

- ◆ 7月のCPI（消費者物価指数）は前年比8.5%上昇した。ガソリン価格の下落を受けて3ヵ月ぶりに伸びが鈍化したものの、約40年ぶりの高い伸びが続いている。コアCPIは同5.9%上昇した。上昇率は前月から横ばいとなったが、高止まりしている。
- ◆ 8月の2年先期待インフレ率は2.66%で、5年先期待インフレ率は2.19%となり、ともに2ヵ月連続で低下し、どちらも2022年3月以来の水準となった。
- ◆ 8月末のWTI原油先物価格は89.55ドル/バレルとなり、7月末の98.62ドル/バレルから低下した。景気後退による需要減が懸念され、月末値はロシアのウクライナ侵攻前の2022年1月以来の水準に下がった。

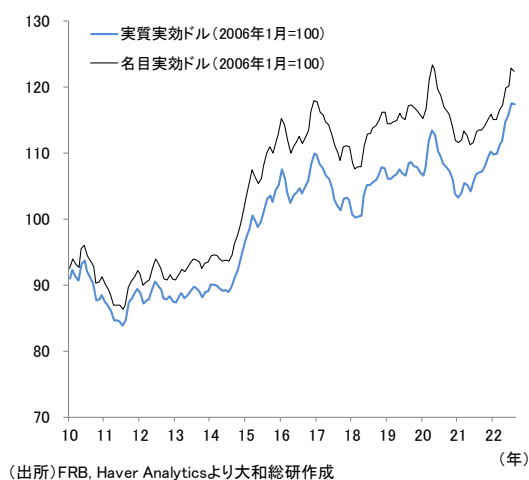
消費者物価指数



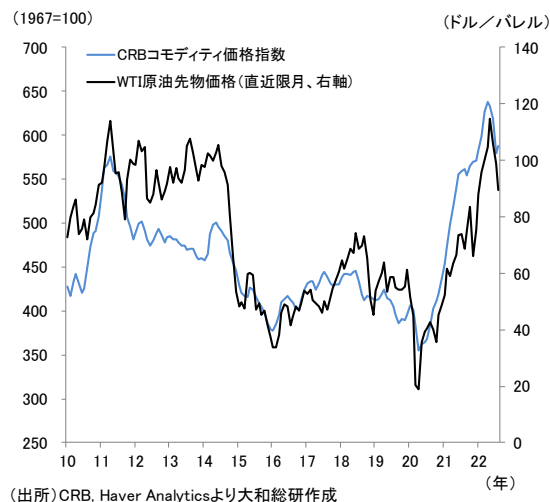
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



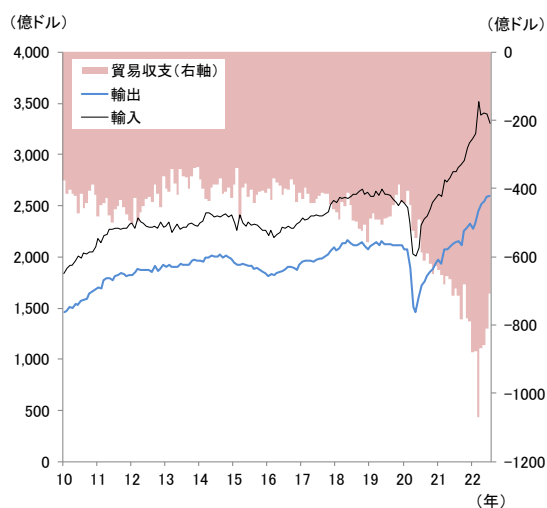
コモディティ価格



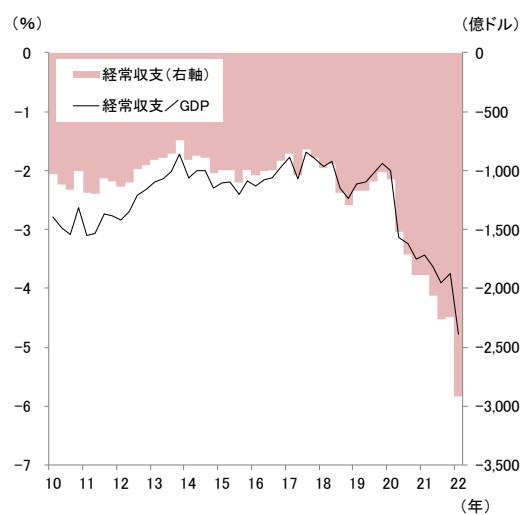
輸出入・経常収支

- ◆ 7月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比0.2%増加し、輸入は同2.9%減少した。この結果、貿易赤字は同12.6%減の707億ドルと、4ヵ月連続で縮小した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出ではその他産業機械などの資本財が主に増加し、輸入においては医薬品を含む消費財の減少が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が前年比4.4%増加したほか、日本向けが同11.2%増、欧州向けが同41.6%増となった。欧州向けは2021年4月以来、二桁台の大幅増が続いている。輸入に関しては、中国からの輸入が同15.7%増加した一方で、日本からは同0.8%減、欧州からは同2.7%減となった。欧州からの輸入は、2020年10月以来初めて減少に転じた。

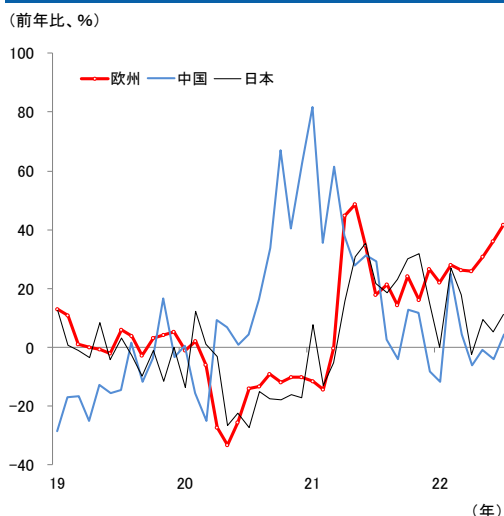
貿易収支動向



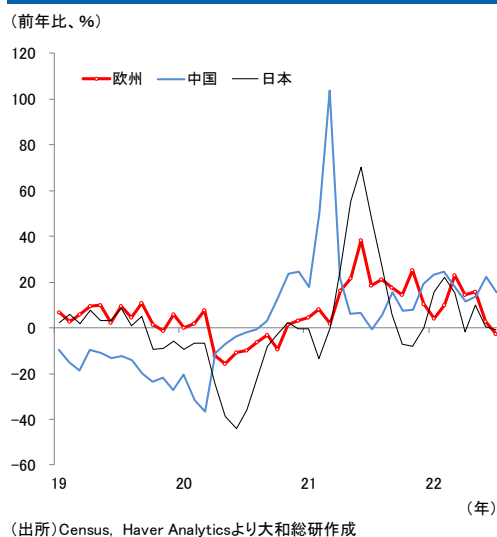
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



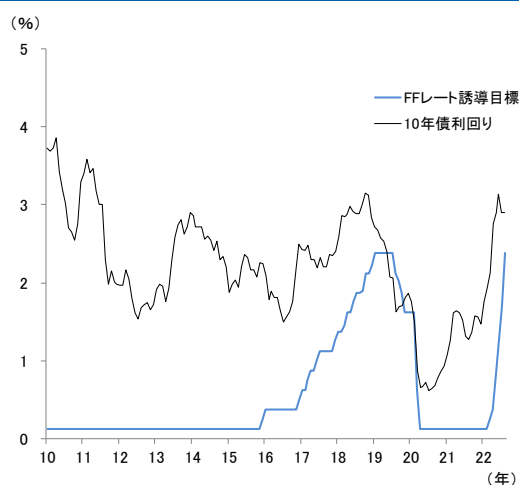
国・地域別輸入動向



金融・財政

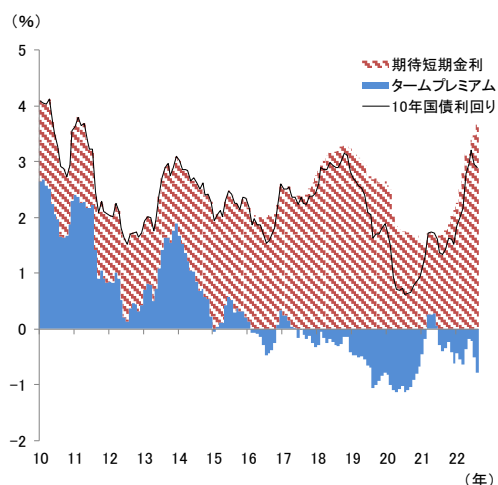
- ◆ 7月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レート²の目標レンジが2.25-2.50%へと0.75%pt引き上げられた。6月のFOMCから2会合連続で0.75%ptの大幅利上げとなった²。8月31日の週のFRBの資産残高は平均で約8兆8,800億ドルであった。
- ◆ 8月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は2.90%となった。景気後退懸念の高まりなどから低下していたが、パウエルFRB議長が大幅な利上げ継続方針を表明後、下旬にかけて急伸した。月中平均値は前月と同水準となった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は赤字幅が高水準で推移しているが、7月は8ヵ月連続で縮小し、2019年8月以来の水準まで改善した。

政策金利・長期金利



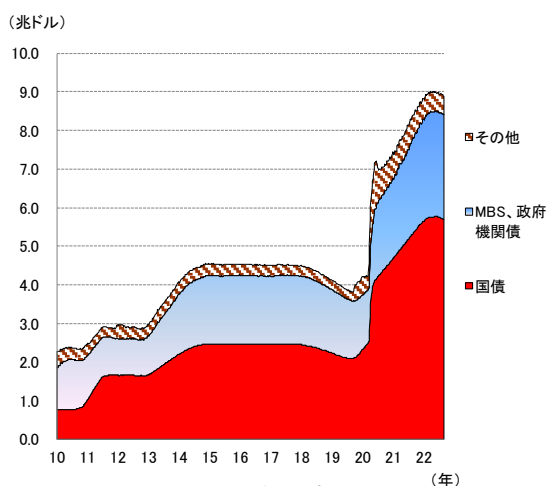
(注)FFレート誘導目標は月末値。
(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

タームプレミアム(10年)



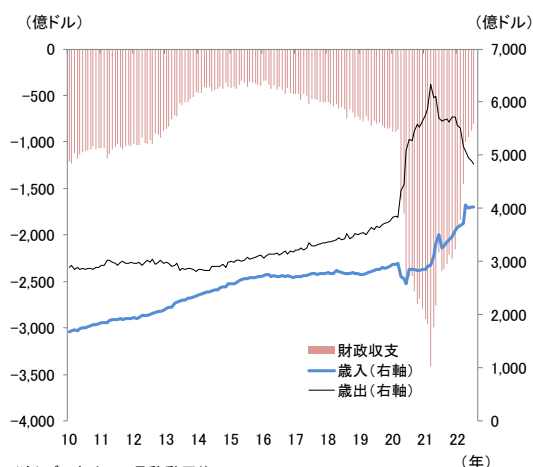
(出所)NY連銀, Haver Analyticsより大和総研作成

FRBの資産構成



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

連邦政府の財政収支



(注)データは12ヵ月移動平均。
(出所)米財務省, Haver Analyticsより大和総研作成

² 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC 0.75%ptの利上げを継続」(2022年7月28日)参照。https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20220728_023193.html